

与那城(足利大付) 初舞台3位

フリースタイル少年男子51^キ級



レスリング少年男子フリースタイル51^キ級準決勝 与那城(左)が返し技を決める
II 足利市のFUKAI SQUARE GARDEN足利、柴田大輔撮影

「高校最強」相手に肉薄

「高校最強」の壁は分厚かった。レスリング少年男子フリースタイル51^キ級の与那城一輝(足利大付高)は、準決勝で今大会優勝の菊地優太(静岡)に惜敗。「(菊地の)高校3冠を止めたかったのに...」。本気で頂点を目指したからこそ、その表情には悔しさがあふれていた。

今夏の全国高校総体で「何もさせてもらえなかった」菊地との再戦で肉薄した。序盤から相手が狙う組み手の形を早めに切り、流れをつかませない。逆に場外付近でタックルを受けた際は、とっさの判断で投げ技に転じ2点を先制。金星へ着実に前進していたはずだった。

だが、そこで待ち受けていたのが王

スポット

者の反転攻勢だ。さらなる得点を狙ってかけた圧力を巧みにいなされ、生じた隙から一気に背後を取られ4失点。その後は鉄壁の防御を崩せず、時間だけが刻々と過ぎていった。

組み手で力負けした今夏の反省から、階級が上の社会人選手らに胸を借りて実戦経験を積み上げた。その成果が初の国体での4強だ。結果的に菊地とフルタイムの6分間を戦い、絶対王者から得点を奪った唯一の選手に。「少しだけ、差が縮まった」と手応えも感じている。

「来年の全国高校選抜、インターハイで優勝したい」と前を向く、まだ15歳の高校1年生。この敗戦が新たな起点となる。

(伊藤慧)